

<p>坂総合病院医学生だより</p> <h1>坂坂</h1>	<p>〈発行〉 坂総合病院 医学生と共に歩む委員会 連絡先・塩釜市錦町16-5 ☎ 022-367-9007 2014年10月1日 No. 66</p>
--------------------------------	--



坂病院の歴史をふり返って



坂総合病院 新院長 内藤 孝

坂総合病院は今年6月に前身の私立塩竈病院から数えて設立百年を迎えます。私立塩竈病院は坂定義医師により設立され、坂総合病院の名前はこの設立者に由来しています。

私が坂総合病院に入職したのは1985年です。医師奨学生としてその前から時々出入りしていましたので30年ほどの歴史は経験しました。

入職当時は設立当初の旧病院が中庭に残っていましたが軍工廠から払い下げられたという木造の医局が印象に残っています。階段を上り下りするとゴイゴイと音がしましたし、冬はすきま風がひどくて窓にはビニールで目張りがなされていました。それでも寒かったのを覚えています。その後新病棟(現在のクリニック1号館)が

増築されましたが3つの病棟が繋がっていて、複雑でお世辞にも格好良いとは言えませんでした。ですから今の病院が出来た時はその立派さに驚きました。

新病院建設は単に建物が新しくなっただけではありませんでした。地域医療支援病院となって地域の医療機関と連携していく方向への大きな転換点だったと認識しています。そのことで活動の幅を大きく広げる事ができ、さらに東日本大震災に際して病院を挙げて取り組んだことは、地域連携の上でも大きな財産になりました。

私が入職した時には現在の病院の姿は想像もできませんでした。百年間営々と医療・介護・諸運動に取り組んでバトンを繋いで来られた多くの方々の努力の賜物と考えます。これからも地域の中での連携を大切にしながら次の百年に向けてバトンを繋いで行かなければならないと思っています。

ぜひとも多くの医学生の皆さんに病院に来ていただいて、歴史に支えられた私共の医療活動を感じてもらえればと願っています。

新・長町病院完成

多くの方々に支えられ 新たな一歩をスタート

2011年3月11日、東日本大震災発生。私たち長町病院も「長町病院附属クリニック全壊」など、大きな損害を受けました。附属クリニック建物は震災直後から仙台市により危険な建物として「立入禁止令（赤紙）」が張り出され、診療を継続することが不可能となりました。そのため、外来と介護事業を縮小しながらも、すべての機能を「長町病院側（現北棟）」に集中して、医療活動を継続してきました。附属クリニック建物は最終的には「全壊」の判定から解体となりました。附属クリニック跡地をどのように利用するか構想検討が繰り返しおこなわれ、2012年12月クリニック跡地に新病院（長町病院南棟）の建設が始まりました。

そして、今年の3月22日（土）待ちにまった新病院（長町病院南棟）が完成し救急及び入院診療を開始、3月24日（月）には外来診療が開始しました。震災から3年、困難を乗り越え、多くの方々に支えられ新たな一歩を踏み出すことができました。

新病院（長町病院南棟）は、「患者が元気にな



る自然の光や風を感じる設計」をコンセプトに広い空間と十分な光を取り入れ、健康的で明るい印象を受ける待合室・診察室・病棟となりました。またシンプルな患者動線と、安全性と視認性の高い職場配置等を考慮しました。また広い病棟ディルームや病棟内機能訓練室や回廊式廊下など長町病院の機能にあった構造も特徴的となっています。

外来診療は、明るく広くなった外来フロアに「嬉しい戸惑い」を感じながらも、ゆったりし

た雰囲気の中かで大きな混乱もなくスタートしました。これまで機器移設等で検査制限があった検査室・放射線室には一気に予約が集中し始めました。

これまで支えてくださった多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、地域や連携医療機関との信頼をより強いものにできるよう職員一同頑張っ

ております。

学生の皆さん、ぜひ一度、長町病院に見学・実習にお越しください。中小病院の地域での役割など考える機会になると思います。新病院に加えてホットな医師・看護師らがお待ちしております。

たくさんの人に支えられて



1年目研修医 遊佐 美友貴

最初はわからないことばかり

1クール目の消化器科ローテート3ヶ月間を終え、現在第2クール目の循環器科ローテートの2ヶ月目に入ったところです。今日までの研修を簡単に振り返りたいと思います。

消化器科ローテートが始まった頃は毎日が挫折でした。物の場所もオーダーの仕方もスタッフの名前もわからない…。右も左も分からないとはまさにこのことという感じです。一番困ったのは、薬が分からないことでした。国試で覚えたのは一般名だけなので、商品名になると全くわからない…。具体的な投与量と用法がわからない…。DI 情報を読んでもよくわからない…。オーダーできない…。(涙)。なので、分からないときにはすぐに上級医や薬剤師さんに聞くようにしました。わたしがまちがって変なオーダーをしてしまっても、薬剤師さんがチェックしてくださるので安心です。本当にありがたいです。最近ようやく、薬の名前には慣れてきたように思います。

エコー技術習得を目指して

私が消化器科ローテートで一番力を入れていたのは、腹部エコーの研修でした。消化器科ロ



ーテート中は、技師さんについてエコーの練習をさせていただける時間があつたので、積極的に検査室に行くようにしていました。最初は何をみているんだかさっぱり？という感じでしたが、技師さんが毎回熱心に指導してくださり、消化器科ローテートが終わる頃には一通りルーチン検査を一人でできるほどになりました。そのおかげで、夜間当直や救急当番のとき、腹痛の患者さんがきてもあまり怖くなくなりました。もちろん、自分ひとりでは評価できないときも多いのですが、そのときは技師さんに改めて検査していただき評価します。技師さんすごいです。本当に感謝です。現在は循環器科ローテートなので、心エコーを習得したいと思っておりますが、なかなか行けていないので、これからがんばろうと思います。

以上、とても簡単ですが振り返りでした。医師になって5ヶ月ちょっと。まだまだ一人では何もできないですが、上級医、看護師さん、薬剤師さん、技師さん、事務さん…たくさんの方々に支えていただきながら研修生活を送っております。感謝の気持ちを忘れずに、これからもがんばります。



民医連の医療と研修を考える医学生のつどい

キーワードは地域医療

8月7日～8月9日、第35回民医連医学生のつどいに参加してきました。全体で300名を超える参加者で、宮城民医連からの参加者は10名。医学生4名、坂総合病院の藤原大医師・川瀬隆一医師、仙台南健康友の会の高橋賢一さん、医学生担当者3名です。

場所は、愛媛県の奥道後温泉。山の中で周りに何もなく、天気も台風の影響で大雨…楽しみは美味しいご飯と大露天風呂でした(笑)。

今回のつどいのテーマは『地域医療』、民医連の医療を考える上で重要なキーワードです。

まずは大阪民医連西淀病院・院長の大島民旗医師から『地域医療の理論と実践について』と題して講演がありました。講演中に班で議論する時間も設けられており、寝ている学生はほとんどいませんでした。「一般的に地域医療という場合、へき地などを思い浮かべるが、医療を行う上での『姿勢』・『方向性』を表す言葉であり、都市部にも地域医療はある。医師個人の姿勢も重要だが、所属する医療機関に大きく左右される、地域診断の重要性、多職種連携や家庭的な視点も含めた臨床能力。患者さんにとっては

一生で数人しか会うことのない医師だからこそ一期一会という思いできちんと診たい。」など将来医師になる学生にとって重要なことを話されました。

また、札幌東健康友の会吉岡恒雄さんからの講演では『共同組織とは?』と題して、【共同組織なくして民医連なし】という思いで、安心して住み続けられるまちづくりに、主体的に取り組んでいることが話されました。

大交流会では、班対抗のゲームを楽しみました!体を使った「借り人競争」、手をのりだらけにしたがらの「輪っか」つなぎ、脳を使った「バラバラ漢字クイズ」。上位3チームには松山名産を贈呈されました。学んで遊んで語って飲んで、とても有意義なつどいです。機会があれば参加してみませんか?

